

平成30年 第1回喬木村議会定例会一般質問

平成30年3月18日 午前9時00分開議

会場： 喬木村役場 議場

順序	氏名	質問事項
1	後藤 澄壽	○この3月末日をもって廃止される米・麦・大豆に関する「種子法」廃止の対策は ○喬木村を愛する子どもを育てるための地域教育は
2	下平 貢	○喬木村ブランド認定制度にむけて 1. SOFIX診断や環境制御への取り組みの状況は 2. 喬木村ブランドの認定制度の確立について 3. 国の関連機関との繋がりを構築していく計画は
3	木下 温司	○公共交通と地域の足の確保について
4	束原 靖雄	○喬木村の農業立村について ○水田の減反政策の廃止に伴う村の需給は ○中山間地に集落営農組合を
5	櫻井 登	○建造物・構造物等の危険性の掌握と、具体的な対策はどうなっているのか ○医療費・介護費の抑制に関する新しい施策を ○「地域包括ケアシステム」の『イズムリンク』の趣旨と徹底について また「ガイドライン」作成と全戸配布を
6	福澤真理子	○電磁波の影響について心配の声にどう考えられるか ○地域、地域住民への期待は
7	後藤 章人	○当村における保育園の安全管理について

平成 30年 2月 16 日

喬木村議会議長 下岡 幸文 殿

喬木村議会議員 後藤澄壽

一 般 質 問 通 告

次の通り通告します。

質 問 事 項	質問の要旨	質問相手
この3月末日をもって廃止される米・麦・大豆に関する「種子法」廃止の対策は	(1) 村として「種子法」廃止についてどう考えているか。 (2) 村として、今後安全安心な優良な種子の安定供給を保障するためにできることはないか。	井澤産業振興課長 井澤産業振興課長
喬木村を愛する子どもを育てるための地域教育は	(1) 喬木村を愛する子どもを育てるための地域教育としてどのようなことを考えているのか。 (2) 長野県教育委員会は地域教材「わたしたちの信州学」を制作して高校生に配布しているが、喬木村でも、地域教材「わたしたちの喬木村学」をつくる考えはないか。	菅沼教育長職務代理 林田教委事務局長

質 問 事 項	質問の要旨	質問相手
	<p>ここでは特に、米について提案したい。まずは土壌診断により現状把握を行い、ブランド作りの第一歩を踏み出す。加えて気候検知を数値化し喬木村ブランドのあるべき姿を確立。延いては喬木村ブランド米の発信に繋げる。ゆくゆくは、阿南町で行われている様に、ふるさと納税の重要品目として位置付けていくことも大切ではないかと考える。</p> <p>そこで今後喬木村ブランドの認定制度の確立の可否について村はどのように考えるか。</p> <p>3.今後、先端の研究機関と繋がり、そのパイプをより太くしていくことは村の発信に大きく寄与すると考える。昨年の農業問題研究会で講演した農研機構などのような国の機関と直接繋がるのが喬木村農業の更なる発展に対し意義深いものになるものと感じる。ただ数値を確認するだけでは意味がない。その先にある大きな目標が大切で、その先にある喬木村ブランド力の強化と販促力、加えて発信力の強化が、農地の所得確保や農地保全に繋がるものと考え。農業には無限の可能性を秘めていると思う。農業に魅力を感じ農地と向き合ってもらえるような体制作りを行い、そのことから、人口増加策へも繋げていくことはできないものかと考える。</p> <p>そこで、今まで以上に国の関連機関とのパイプを構築していくことについて村はどのように考えているか。</p>	井澤産業 振興課長

平成 30 年 2 月 20 日

喬木村議会議長

殿

喬木村議会議員 木下温司

一 般 質 問 通 告

次の通り通告します。

質 問 事 項	質問の要旨	質問相手
<p>1. 公共交通と地域の足の確保について</p>	<p>1・平成 30 年 4 月から移送支援事業の見直しが行われ、新しい基準で運用されますが見直しに至った背景についてお聞きします。</p> <p>2・富田の一部地域ですが、村民バスのバス停から遠く、不便なので足の確保の対策として、コミュニティバスの運行はできないのか、お聞きします。</p> <p>3・有償ボランティアによる移送事業について、また、住民助け合い事業の取り組みについて村としてのお考えをお聞きします。</p> <p>4・高齢者住宅の設置など、今後村としての対応についてお聞きします。</p> <p>5・特養等の入所者待機状況・介護士の充足状況についてお聞きします。</p>	<p>飯ヶ浜保健福祉課長</p> <p>林企画財政課長</p> <p>飯ヶ浜保健福祉課長</p> <p>飯ヶ浜保健福祉課長</p> <p>飯ヶ浜保健福祉課長</p>

平成 30 年 2 月 21 日

喬木村議会議長 下岡幸文 様

喬木村議会議員 東原靖雄

一般質問通告書

次のとおり通告します

質問事項	質問の要旨	質問相手
1. 喬木村の農業立村について	<p>・ 10年前までは喬木村は農業立村と言われ、個人経営、集落営農組合等に於いて大型トラクター、コンバイン、乾燥機、籾摺り機等が盛んに購入がされ稲作に於いては持続可能に思われ、又若者達も小数であるが果樹、野菜、畜産、花キ栽培に就農され新たな農業の発展と思いましたが、しかし現在では若者の就農もなく、農業立村が衰退されている様に思いますが、村はどう考えますか。</p>	井澤産業振興課長
2. 水田の減反政策の廃止に伴う村の需給は	<p>・ 米の需要と供給のバランスを目的とされた減反政策が昭和44年に施行され約50年になります、その政策が平成30年より廃止されることに2年前より説明されてきました。現在の栽培技術の向上、大型機械での耕作されれば米の生産は過剰になり、1俵6,000円になると心配されてきました、この廃止が本当にそうなりますか、又政策はどう見直されるのですか。</p>	井澤産業振興課長
3. 中山間地に集落営農組合を	<p>・ 現在の水田耕作においては団塊の人達が中心に行われているが、その人たちも高齢化に進み、田植えは出来るが収穫、刈取り、はざ掛け、脱穀等が困難である農家が増加傾向になって来ています。そこで各地区(中山間地)に集落営農組合を設立し、収穫作業を共同の担い手の育成はどうですか。</p>	井澤産業振興課長

平成30年2月22日

喬木村議会議長 下岡 幸文 殿

喬木村議会議員 櫻井 登

一般質問通告

次の通り通告します。

質問事項	質問の要旨	質問相手
<p>1 建造物・構造物等の危険性の掌握と、具体的な対策はどうなっているのか。</p>	<p>昨年末、県道沿いの建造物が強風にあおられて倒壊し、歩道を含めて道路を塞ぐ事態が発生しました。幸い人も自動車も通行の狭間であったので、大事に至らなく小難で事なきを得たが、万一は想像を絶するものと背筋が寒くなった。</p> <p>私たちの生活空間では、周囲の見えにくい危険と背中合わせの中で往来し、振り返れば「ハット」する瞬間を生き抜いているようなもので、そのような中で、公園の遊具等は経年劣化が進み、例え塗り替えても危険度が最小に復元されるものではなく、また、空き家の場合も同様に、倒壊や火災の危険性も高いと思われる個所も少なくはないと考えられる。墓地の墓石の倒壊などの心配もあり、普段は何気なく通り過ぎていることが多いのではないかと、思えば周囲の危険性は数多くあるが「建造物・構造物」はじめどのように身の回りの危険性を掌握されているのか。</p> <p>そして、具体的な対策はどうなっているのか、お尋ねします。</p>	<p>福澤建設課長</p>
<p>2 医療費・介護費の抑制に関する新しい施策を。</p>	<p>健康寿命と平均寿命との中間期間は、男性は約9年間、女性は約13年間。この健康寿命、平均寿命はいずれも延伸しているにもかかわらず、その中間期間は短縮なく推移している。</p> <p>1年間、2年間と、期間短縮ができれば「医療費抑制、介護費抑制」はかなりできると考えられるが、この健康寿命と平均寿命との中間期間が短縮できない主な原因は何か。また、その対策はどのような施策があれば良いのか。最適、かつ有効な施策をお尋ねします。</p>	<p>飯ヶ浜保健福祉課長</p>
<p>3 「地域包括ケアシステム」の『イズムリンク』の趣旨と徹底について。 また「ガイドライン」作成と全戸配布を。</p>	<p>「在宅療養」のための、縦糸と横糸を紡ぎ合せた多職種連携による「ときどき入院、ほぼ在宅」の仕組みは、飯田下伊那地域の診療情報連携システムのネットワークと、それによって確保される情報共有としてそれぞれ協働のチーム医療によって「方針の統一」が図られる有用な連携ツール「イズムリンク」だという仕組みの概要の理解は進んだ。この仕組みを全村民に周知すべき「ガイドライン」の作成とその配布はどうか。</p>	<p>飯ヶ浜保健福祉課長</p>

平成 30 年 2 月 26 日

喬木村議会議長 下岡 幸文 殿

喬木村議会議員 福澤眞理子

一 般 質 問 通 告

次の通り通告します。

質 問 事 項	質問の要旨	質問相手
電磁波の影響について心配の声にどう考えられるか	<p>喬木村においては ICT を活用した教育に先駆的に取り組み、先だって文部科学大臣表彰を受けられた。学校の授業だけでなく、土曜塾や未来カレッジなど取り組まれている。放課後の取組も子どもたちも楽しんで積極的に取り組んでいると関係者の話も聴いているところである。昨年行われた ICT 教育シンポジウムに参加し、授業を参観させてもらった。小規模校の児童にとって効果は大きいのではないかと感じた。先生方におかれては、当初は大変だったが、取り組みを進める中で、普通授業の改善にも繋がっているとの報告もお聴きした。</p> <p>現在の私たちの生活では、携帯電話とスマホの普及率は国民全体で 95%にも昇るといわれている。家庭電化製品など、便利さやスピードと引き換えに電磁波に包囲された生活になっている。今後さらに情報関連知識や技能も求められる社会に進んでいくと思われる。</p> <p>WHO 電磁界プロジェクト見解では携帯やスマホ、無線ネットワークなど、健康に悪影響を与える科学的根拠はないと結論つけられている。しかしながら健康について心配される声もある。</p> <p>電磁波の環境は、学校より家庭における暴露が大きいとは思いますが、そのような心配の声についてどのように考えられるか。</p>	村澤 総務課長
地域、地域住民への期待は	<p>祖父母参観などで、学校に行く機会ができた。</p> <p>最近担任の先生からの依頼を受けて、児童と行動を共にする機会を得た。テーマは地域探検。地域の方にお話ししていただくよう協力をお願いして子どもたちと一緒に勉強をした。参観やそのような活動を通じて、学校が地域に開かれ、地域住民の方々が様々な形で児童に関わっておられることがわかった。学校の中だけでなく、広く人間関係を築くことができることは子どもたちの成長に大きな影響を与えるものと思われる。顔の見える関係ができることは、子どもたちの安全を守ることにもつながると感じる。地域の中の学校であり続けてほしいと願っている。地域、地域住民へ期待することはなにか。</p>	菅沼 教育長職務代理

平成 30 年 3 月 5 日

喬木村議会議長 下岡 幸文 殿

喬木村議会議員 後藤 章人

一 般 質 問 通 告

次の通り通告します。

質 問 事 項	質問の要旨	質問相手
<p>1. 当村における保育園の安全管理について</p>	<p>1. 2月23日に、当村近くの保育園で保育園児が保育中に緊急搬送される事故が起こりました。2017年4月14日には神奈川県で、同8月25日には埼玉県でそれぞれプールでの死亡事故が起きています。そこで喬木村の保育園の安全管理はどのようになっているのか「保育園安全管理」の内容を見せていただきました。そこで気付いた事を質問します。</p> <p>1. 登降園の安全確認の中の(1)…園児の受け入れに万全を期すること。(2)…引き渡しを確実に行うようにする。</p> <p>2. 保育中使用する遊具・用具・工作材料等の取扱いの中で(2)使用方法・安全な取り扱いを園児に理解させ…。4番の「川遊びで特に注意すること」の中で川遊びの際監視の職員の配置などについても具体的な場所・人数が記されていない。など「何をする」という事は明記されているが「どのように行うか」は明記されておらず、具体性に欠けていると感じられるところがいくつかある。</p> <p>①この「保育園安全管理」はいつ頃作成されたものであるのか。また、見直し・検討はされているのか。</p> <p>②保育士の方は読み合わせなどの学習は年間どれ位行っているのでしょうか。</p> <p>③子供の動きは、いかなる場合も想定内であると限らない。もう少し具体的に文章化すべきではないか。</p>	<p>林田 教委 事務局長</p>